

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL
31

2013

◎特集 医学部創設40周年とともに、 さらなる発展へ

DOCTOR'S VOICE 01 病院長の新年挨拶

DOCTOR'S VOICE 02 これからのチーム医療を担う薬剤師

DOCTOR'S VOICE 03 法医解剖の成果を臨床にフィードバック



患者から学び、患者に還元する病院

愛媛大学医学部附属病院

大学病院の理念・活動を社会に広げ、文化として継承していく

— グレートホスピタルを目指して —

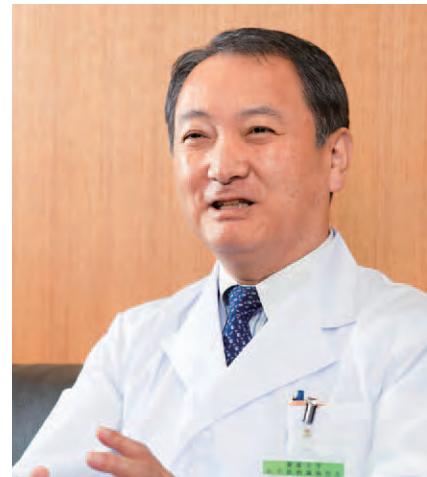
病院長 檜垣實男 医師

当院は愛媛県唯一の医育機関であり、特定機能病院の指定を受けた医療機関です。地域医療を支える中核病院として、医療人の育成や県内医療機関・行政との連携、先進医療の推進などに取り組み、医療の発展に尽力してまいります。その上で地域住民の皆様に信頼していただける「The Great Hospital(偉大なる病院)」を目指し、最高レベルの医療とサービスの提供を追求しています。また、従来の講座の枠を超えたセンターの設置にも力を入れ、小児総合医療センターから抗加齢・予防医療センターまで、ゆりかごから老年期までをシームレスにカバーする体制を整えました。

本年は、これらのセンターやチームの動きを集約化効率化し各々の能力を最大限に活用するため、新たに「総合診療サポートセンター」が稼働します。総合診療サポー

トセンターでは各部門が連携し、患者さん一人一人に対して退院後の生活を見えた治療計画・ケア計画を立て実行していきます。この活動によって、今まで以上に患者さんに寄りそった質の高い医療が提供できるものと考えています。また外に開かれた病院として、トランスレーショナルリサーチの推進による地域産業の育成や東温スタディの継続、患者さんと市民の憩いの場「ホスピタルパーク」の設置、地域の医療機関との連携強化などを通して、積極的に地域社会と関わり愛媛県内の医療の発展に貢献していきます。

平成25年は法人化後に準備した様々な試みが花開きます。次のステップは今まで培ってきたものを文化に昇華し、文化遺産(レガシー)として確実に次世代へ継承していくことを目指します。



PROFILE

ひがきじつお◎1953年愛媛県生まれ。1978年大阪大学医学部卒業、1998年7月大阪大学加齢医学助教授。2002年5月から愛媛大学第二内科教授。その後、大学院病態情報内科学教授、副病院長(企画経営、企画総務担当)を経て、2012年4月1日に病院長就任。趣味は読書、ドライブ。

昨年は「ゴールは新たなスタート」、今年のテーマは「発展ある継続」

薬剤部長 荒木博陽 教授

この10年で薬剤師を取り巻く環境は目まぐるしく変化してきました。平成4年の医療法改正で、チーム医療を担う一員として薬剤師が組み込まれ、当院でも薬剤師による服薬指導を実施してきました。更に平成25年度からは職員を増員し、病棟業務専任の薬剤師を配置することとなりました。今まででは医師が処方した薬に対して説明を行ったり、副作用が重篤化しないように指導するのが主な業務でした。これからは病棟に常駐することで、医師が処方する前段階での注意事項の説明や、副作用を未然に防ぐための指導ができるようになります。

当薬剤部では、以前から各薬剤師の専門性を高めることを重視し、認定・専門薬剤師の育成に力を入れてきました。現在は10名以上の薬剤師が専門資格を有しています。

本年から病棟業務が始まるもあり、今まで以上に認定・専門薬剤師の育成を推進していきたいと思います。また学会での研究発表と発表内容についての論文を学術誌に投稿することを全ての薬剤師に義務づけています。この5年間で、英文論文を50編、邦文論文を64編発表しています。今後も皆様の期待に応えるべく、薬剤部一丸となって薬物治療の向上に尽力してまいります。



PROFILE

あらきひろあき◎九州大学薬学部卒業。大正製薬株式会社、岡山大学医学部附属病院薬剤部で助教授・副薬剤部長を経て、2002年から当院へ。2014年秋に開催される「第8回日本緩和医療学会年会」では大会長を務める。趣味は園芸(家庭菜園を含む)、ゴルフ。

検死・解剖は「最後の医療」。死因究明を通して社会へ貢献する

法医学 浅野水辺 教授



PROFILE

あさのみぎわ◎1968年兵庫県生まれ。1994年神戸大学医学部卒業、麻酔科臨床研修を経て1995年11月神戸大学法医学講座入局、2009年神戸大学准教授、2012年10月から愛媛大学法医学教授。愛媛県警察解剖嘱託医。趣味はドライブ。

平成24年9月に死因究明等の推進に関する法律が施行され、平成25年4月からは警察等が取り扱う死体の死因又は身元の調査等に関する法律（死因・身元調査法）が施行されます。これらの死因究明関連法により、犯罪死の見逃し防止と公衆衛生の向上を目的として「新法解剖」が創設されます。平成22年のデータでは愛媛県警察が取り扱った死体は2219体、そのうち解剖を行ったものは4.9%です。全国平均の11%を下回っているのが現状です。今後、警察庁は解剖率の増加を目指しており、愛媛県での解剖件数も増えていくと思われます。

愛媛大学法医学は前任の教授の退官後長く後任不在が続いておりましたが、平成24年10月に私が着任いたしました。解剖数の増加に対応できるよう、マンパワー

の増強に努めたいと思います。ハード面では関係各位のご配慮により、剖検室の改修が進められており、次年度に完成の予定です。今後は学生に対する法医学教育の充実、卒前・卒後教育のひとつとして検死・解剖実習を取り入れるなど後継者の育成にも取り組んでいきます。また亡くなつた方だけでなく生きている方を対象とした「臨床法医学」についても取り組み、例えば児童虐待やドメスティック・バイオレンス等の傷病診断に法医学の立場から意見を述べるなどし、被害の拡散防止のお役に立ちたいと思います。

検死・解剖は人が受ける「最後の医療」です。1からスタートするつもりで解剖体制や教室の基盤を整えていきます。そして専門家として科学的かつ正確な死因を解明していきたいと考えています。

INVITATION TOPICS

第2回地域医療再生セミナーの開催 ~平成24年11月15日~

平成24年11月15日（木）に医学部創立40周年記念講堂にて第2回地域医療再生セミナーを開催しました。檜垣病院長の挨拶の後、地域医療支援センター高橋副センター長がセンターの事業説明を行い、続いて地域医療に貢献する5つの寄附講座の川本教授、畠山教授、今川教授、本田教授、松浦教授により、地域で活躍する医師の育成や地域医療連携をテーマに講演を行いました。講演後は「愛媛の地域医療はどうあるべきか」と題したパネルディスカッションを安川

医学系研究科長及び高田地域医療支援センター長を座長に講演者全員がパネリストとなり、活発にディスカッションを行いました。会場には学内教職員・学生のほか、県内各市町の行政機関、医師会、各関連病院等から約140名の参加者がおり、地域医療の現状と諸課題について考える良い機会を持つことができました。今後もこのような活動を通じて情報を発信し、関係機関とのネットワークを強化し、地域医療を担う医師の養成を推進してまいりたいと思います。



愛媛大学医学部附属病院 センター・施設トピックス

お気軽にご相談ください

院内が音楽に溢れた12月



平成24年12月4日(火)、当院内レストラン愛彩館において、愛媛県警察音楽隊をお招きして「患

医療サービス課 ☎089-960-5099

ボランティア懇談会

当院が主催となり、平成24年11月12日(月)に病院業務遂行を支援するボランティアの方々と懇談会を開催しました。病院長が直接意見を伺う意見交換の場として毎年開催しているもので、今回は病院関係者を含め34名が参加しました。懇談会では檜垣病院長、田渕看護部長が日々の活動に謝意を表し、寺岡会長から活動状況の報告があった後、活発な意見交換を行いボランティアの方々と病院との信頼関係を深める一日になりました。

医療サービス課
☎089-960-5099

愛媛県がん診療連携セミナー

当院主催で平成24年12月1日(土)、医学部創立40周年記念講堂にて愛媛県がん診療連携セミナーを開催しました。セミナーには東日本大震災を経験した患者・家族連絡会(グループ・ネクサス)の武田智枝様と、福島労災病院の副院長の武藤淳先生をお招きし、それぞれご講演を行っていただきました。約130名の医療関係者や一般の方々が参加し、非常事態下でのがん診療を考える意味で貴重な講演会となりました。

総務課
☎089-960-5125

者さんと心ふれあうコンサート」を開催しました。患者さんをはじめとする200名以上の方々が集まり馴染み深い曲のメドレーを楽しみ、会場は拍手喝采、アンコールが飛び出す盛況ぶりでした。また同月19日(水)には著名なチェリストであるナサニエル・ローゼン氏をはじめ尾海あかりさん、柏原大蔵氏をお招きし、クリスマスコンサートを開催しました。トーンチャイムの演奏も行われ、患者さん、ご家族を中心に約260名の方々にとって一足早いクリスマスプレゼントとなりました。

砥部焼食器



当院では地産地消並びに地域に根ざした病院食の提供を行っています。この度、特別メニュー(毎週金曜日の1回)の器に県内の代表特産物でもある砥部焼を取り入れました。砥部焼の窯元に出向き、病院食で使用の旨をお伝えしたところ、当院のためにオリジナルの器を焼いていただきました。当院で使用する砥部焼は軽量で、とても愛らしい模様です。病院食は治療の一環ですが、食事であり患者さんにとって安らぎの一時です。器と共に召し上がって頂ければと思います。

外国人に授与する最高位の勲章



ハートセービングプロジェクトの活動に尽力している当院小児総合医療センターの檜垣高史特任教授が、平成24年7月16日(月)にモンゴル国大統領令による「北極星勲章」を受勲しました。継続的な小児循環器診療活動や教育、技術指導が高く評価され受勲に至りました。

総務課
☎089-960-5125

リレー・フォー・ライフ

平成24年10月13日(土)・14日(日)に松山市城山公園ふれあい交流広場において開催された「第3回リレー・フォー・ライフ2012 inえひめ」。総勢2000名以上が参加した中、愛媛大学医学部・当院からは様々な職種で構成されたチームが参加し、24時間たすきをつないで歩き続けました。

医療福祉支援センター
☎089-960-5917

編集後記

新年明けましておめでとうございます。愛媛大学医学部は今秋創設40周年を迎えます。40周年記念誌の発行や11月には記念式典を施行する予定です。その一環として旧臨床第1講義室を記念講堂と名づけて改修をいたしました。表紙の集合写真はそこで撮影しました。今回は新年にあたり檜垣病院長の熱い思い、薬剤部のチーム医療と専門性の紹介、法医学講座の新教授のご紹介、第2回地域医療再生セミナー開催報告など数多くの話題を提供させていただきました。今年もぜひ皆様の温かいご支援を引き続き宜しくお願い申し上げます。

愛媛大学医学部附属病院広報委員会委員長
高田清式

◎表紙
新年の病院長挨拶
—医学部創立40周年記念講堂にて—



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 ☎089-964-5111(代)
ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>